

## 特浴での入浴介助における業務改善 ～表皮剥離アクシデントの減少をめざして～

施設名：江藤病院

発表者：正木 仁平 (介護福祉士)

共同演者：東根 裕太 (介護福祉士) 脇岡 真司 (看護師) 富永 安永 (看護師)  
藤田 光子 (看護師) 大和 孝子 (看護師) 由宇 教浩 (医師)

### 【はじめに】

当院の医療療養病棟では入浴介助時の移動用ストレッチャー上での表皮剥離のアクシデントが継続的に発生していた。そこで、表皮剥離減少を目的に問題を抽出し、ハード面に着目し業務変更を行った。その結果、多方面で有益な効果があったので報告する。

### 【方法】

- ①移動用ストレッチャーを使用せず、ベッドごと病室から浴室へ移動して待機や更衣もベッド上で実施。
- ②研究期間：2020/7/1～12/31
- ②変更前後の表皮剥離の発生件数の比較。
- ③変更後、職員への意見・感想を聴取。

### 【結果】

表皮剥離発生件数は変更前(7/1～9/15)7件、変更後(9/16～12/31)0件だった。意見・感想は、ベッドの方が広い為更衣がしやすく、転落のリスクが減少した。待ち時間や背部の負担も減った。移動用ストレッチャーの手動での高さ調整が不要になった。ベッドからストレッチャーへの移乗がなくなったので患者・職員ともに身体的負担が減った。シーツ交換が同時にでき業務効率が良くなった。動線を変更したため男女の入れ替わりもスムーズになった。広い浴室を有効活用し、ソーシャルディスタンスが取れている。などの肯定的な意見が多かった。一方、否定的な意見として、入浴後シーツが濡れる。ベッド車輪の摩耗が心配。ベッドの移動は廊下やエレベーター内で周囲に迷惑になっている可能性がある等があがった。

### 【考察】

今回、浴室の恵まれたハード面を有効活用して、入浴介助方法を変更したことで以下のように業務改善をすることができた。①ストレッチャー上でのケアを廃止し、ベッド上で行うことで表皮剥離がなくなった。②転落のリスクや身体的負担が軽減し患者様にとって以前より安全で安楽となった。③業務効率が良くなり職員の負担軽減になった。今後も定期的に業務を見直し、安全で安楽なより質の高いケアの提供に努めたい。